

# ソーシャルワーカー

## ● ソーシャルワーカーとは

ソーシャルワーカーとは、すべての個人が、地域社会において、自分らしい生活ができるように支援する専門職である。一般には、社会福祉士国家資格を取得し、地域社会、福祉現場、専門機関において社会福祉実践をする。「社会福祉士及び介護福祉士法」(1989年)によれば、「①社会福祉士を名乗る(名称独占)。②専門的な知識と技術をもつ。③日常生活を営むのに支障がある者と向きあう。④相談、助言、指導、連絡・調整をする」社会福祉の専門職である。

ソーシャルワーカーが実践する現場は、児童・高齢・障害等の領域に加えて、司法や教育等の新しい領域へ拡大しつつある。個人の自立生活支援をテーマとするソーシャルワーカーの実践が求められる領域や場面は、人々の生活があるところに存在する。1990年頃以降、戦後の社会福祉基礎構造改革が進められ、社会システムも複雑化するとともに、個人や家族の生活や生き方も個別化・多様化の傾向にある。こうした社会の状況や環境から様々な解決困難な問題が生まれ、ソーシャルワーカーの役割と機能はいつそう期待されている。

ソーシャルワーカーの業務は、社会福祉のフォーマルな領域(社会福祉の施設・機関、社会福祉協議会等)に収まらない。社会福祉の対象や範囲が拡大化するにつれて、ソーシャルワーカーは限定された枠組みを超えて、社会福祉関連・隣接領域(看護・心理・精神、教育、家族、産業等)やインフォーマルな領域(SHG、ボランティア、NPO等)において、多職種との協働と連携を図りながら、固有の専門性を発揮することが求められている<sup>1)</sup>。

## ● ソーシャルワーカーの価値と価値観

ソーシャルワーカーは、相談援助を実践する専門職である。対人援助専門職として第一の要件は、専門的な知識と技術をもつことであるが、ソーシャルワークの価値に通じる人間観と倫理観が求められる(図1)。ソーシャルワークの価値とは、「すべて人間は、平等であり、人間の尊厳を有し、かけがえのない存在として尊重される」価値であり、この価値認識を基盤として、ソーシャルワーカーは相談援助を実践する。一方、ソーシャルワーカーも一人の人間としての価値観をもつ。価値観は、個人の育ちや家庭環境、人生経験等から形成される。すべての人々は固有の価値観をもつ。

ソーシャルワーカーは、他者であるクライアントと向きあい、相談援助を実践するため、常に自他の存在と関係性に直面している。ソーシャルワーカーの内面では「一人の専門職としての価値」と「一人の人間としての価値観」の狭間でジレンマを抱えたり、ソーシャルワーカーの価値観とクライアントの価値観がぶつかりあうこともある。ソーシャルワーカーは、自己覚知やスーパーバイズを通して、互いの価値観を尊重しながら、一人の個人(クライアント)を人間の尊厳を有するかけがえのない存在として向きあい、相談援助を実践する。

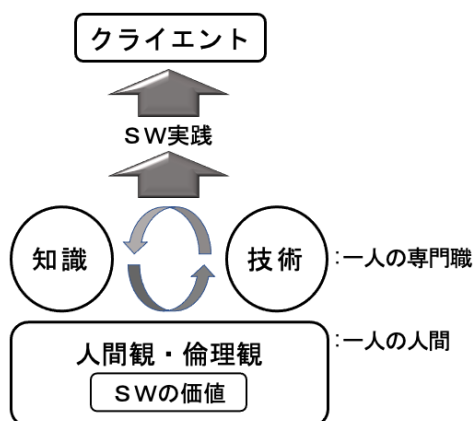


図1 ソーシャルワークの価値と専門性

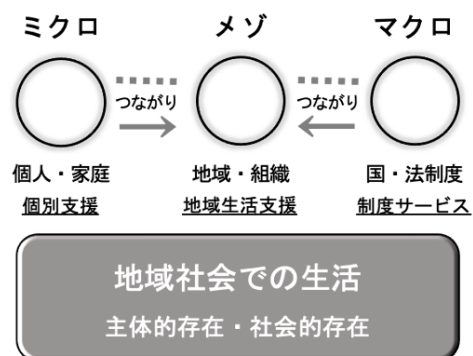


図2 ミクロ・メゾ・マクロのつながり

## ● ソーシャルワーカーの視点と実践

ソーシャルワーカーの視点と実践を整理する。

第一に、目の前の問題を問題として捉えない。問題を現時点で捉えるのではなく、「なぜ、今、この問題が起きているのか」を、過去から現在に至るプロセスから捉える。そのためには、クライアントの「生活の背景」や「人生の歩み」（＝生活の全体）を、ストレングス視点（＝その人のいいところに着目する視点）をもって見通していく姿勢が求められる。

第二に、生活ニーズをアセスメントする。生活基盤、健康状態、家族内関係、対人関係、社会参加の状況等の情報を収集し、個人とその生活をわかつてみる。客観的情報に加えて、主観的情報にも着目することにより、クライアントのニーズ（欲求・要求）を汲みとる。

第三に、現実的かつ具体的に支援する<sup>2)</sup>。理想論や机上の話では支援にはならない。基本姿勢として、「クライアントとともに支援方法をプランニングする」「クライアントと多様な社会資源をつなぐ」「クライアントの主体性を尊重し、社会参画を促す」ことを通じて、クライアントとの信頼関係（ラポール）を築き、現実的かつ具体的に支援する。

第四に、マクロ・ミクロ・メゾの視点から捉える。法制度や社会全体等を捉える「マクロ視点」と個人の生活や心理等を捉える「ミクロ視点」を融合させながら、地域社会における市民（個人）の生活や活動を捉え、支援する「メゾ視点」につなげて実践する。（図2）

第五に、多職種連携の調整をする。子どもに関するケースであれば、児童領域の専門職の援助のみでは対応できないことがある。子どもを取り巻く環境や多様な社会関係が存在しているため、課題解決に向けては多様な専門領域とのつながり（＝多職種連携）が必要であり、各専門職が専門性を発揮できるように調整を図る。

### 参考・引用文献

- 1) 梓川 一：『ソーシャルワークと活動分野ーソーシャルワーカーとケアマネジャーのための相談支援方法ー』。久美出版，2008
- 2) 岡村重夫：『社会福祉原論』。全国社会福祉協議会，1983

（梓川 一）